

震災から1年早く見せて欲しい復興図面

東日本大震災からはや一年が過ぎましたが、被災者にしても被害に有ってない関西人も何か、もやもやした一年だったのではないのでしょうか。政治が混沌としていて全然スピード感がないとか、色々な理由はあると思いますが、本当にそれだけの理由でしょうか。

東京直下型地震の発生の可能性は東日本大震災以前から盛んに何時来てもおかしくないと議論されていましたが、大震災以降関西にも三連動地震が襲い掛かると言う予測がされ大々的に議論されています。

しかし議論されているだけで、我々国民の為に国の大きな政策は何か、それには何が必要なかの議論は全然聞こえて来ない事が問題ではないでしょうか。

小生は思います。東北地方で画期的な復興プランを早く作り上げ実行に移して下さい。そして我々被害に遭ってない関西人もそのプランを参考に『50年先の新しい住まい作り『真の成熟した本当の自然に優しい防災が完備した街作り』とは何かを皆で白いキャンバスに描いて実行に移す事が日本の新しい国作りだと小生は信じたいし思いたいです。

私が住んでいる大阪市は大阪湾の奥に有っても、南海大地震の大津波が襲いかかると沿岸部は凄惨被害が想定されています。地下街などは多分全滅でしょう。大阪の行政の中心部の大阪府庁・大阪市庁も相当な被害を受け全く機能しないと想定されています。

そんな将来起こる事がはっきりしているのに、全く新しい街作りの政策を我々市民に提案出来ないのは何故なのでしょう。大阪を都政にするとか、それに堺市が広域自治体として参加しない等の話は、全く国民目線ではない話です。それは手段で有って目的では有りません。将来大地震の為に関西全体が被害を、被るのは歴史的に証明されているのです。

20～30年先に大きな被害が想定されているなら、50年位掛かるかも知れないが関西人に合った全く今までと違う街作り事業は関西の本当の起爆剤になると思います。

こんな当たり前の事はおそらく若手の優秀な官僚なら解っていると思いますが、そうすると直ぐ予算は幾らで何処から引っ張って来るのと議論になるはずですが、しかし良く考えて下さい。東北地方の復興に15兆円以上のお金が掛かるのです。関西に同じ様な大災害がくるとその金額の3倍～5倍のお金が掛かる事は阪神大震災の経験から我々は解っています。

将来大きな被害が想定出来ているのに、その被害に合う事を前提に非常食の準備・簡易トイレの準備・懐中電灯の準備等のあくまで守りの対策しかしていないのは、全く手抜かりと言わざるを得ないと思います。もっと長期的であっても積極的な対策が我々に課せられた課題だと小生は思います。

この対策こそ現実的に考えれば遷都・国の行政機関の移転等の大きな国の政策に結びつく話だと思います。長く京都・奈良に都が置かれていた歴史を考えるとこれからの日本の首都がこれから先も東京で良いのか考える時期に来ていると思います。



無法状態をそのまま放置して良いのかを教えてください

日本の国土は昨年の東日本大震災の為に大きな土地の利用方法が改められ新しい時代に合った方向に変わろうとしています。極端民の回りに危険な事が一杯有るのに、全然改められない言わば法律が無い状態ではなかろうかと思えます。

建築の設計に携わっている建築士の先生方に震災1年の時期に聞きたいと思ひ服部新聞の紙面を使いお話を聞きたいと思ひます。

又将来の日本の国民の為の住いの設計とはこう言う姿が良いという意見を頂けたら嬉しく思ひます。

まず違法状態に有るのは、空中越境物です。これは至る所に有ります。5~6年位前道路にはみ出している自動販売機が問題になり、僅かの時間で解決しましたが、空中越境物と道路にはみ出した自販機法律上どこが違うのか是非教えてくださいと思ひます。



空中越境物が地震の為に落下して通行人の頭に当り死亡した場合誰が責任を取ってくれるのですか。もう一つ無法状態の物が有ります、それは屋外看板です。公道に堂々と置かれている看板です。これも法律上自販機との違いは何かと是非教えてくださいと思ひます。もしこの屋外看板でケガをした場合誰が責任を取ってくれるのですか。何も無い時は気にしない物が非常時には凶器になる可能性が有る事は今回の震災で我々は経験したはずで。電信柱も危険物に変化する時があると思ひます。大阪の市内の幹線沿いは電信柱の地中化は進んでいますが、少し中に入り上を覗く

と電線だらけです。その電柱が倒れて来ないとは断言できないと思ひます。

まだまだ多くの問題が日本中に有ると思ひます。しかし何も問題が生じないと全く改善されないのが我国の特徴かも知れませんがこんな事を続けているから東日本大震災の大きな災害『福島原子力発電所の問題』が起こった時に想定外と言う言葉を使い逃がっているのだと思ひます。

自然災害はこれから将来も想定外に発生するでしょう。しかしそれに伴う事故には想定外と言う言葉はこれから先使えなくなってしまうのが福島の問題だと小生は思っています。国民の安全が100%守られてこそ経済発展も有る筈です。

住いと住空間の設計を司る建築士さんに将来の日本の街作りについて一言教えてくださいと思ひます。



得意先だけの勉強会

弊社の得意先様の1社の社長様から、木の勉強を若い社員の為にさせたいから、『服部さん何かアイデアが有りませんか』とご要請が有りました。具体的にお聞きすると服部さん所で購入した原木の製材を若い社員に是非見せたいのだけれど、単に見せるのではなく、肌で接する事が出来ないかと言う御要請で有りました。さっそく得意先様の製材時に勉強会を開きました。

- 1、皮を剥く 『何故皮を剥くのかを詳しく説明致しました。』
- 2、原木を二つに割る胴割る作業 『原木を二つに割るとはどう言う意味なのかを詳しくご説明致しました。』
- 3、取りたい部材を原木の何処から製材していくかと言う作業 『原木を製材する時の必ず守る事柄、製材とは安全策で製材しなければなりません。これも丁寧に説明致しました。』



皮を剥く作業を見て頂いています。



皮を剥いたブラックウォールナット原木の説明



胴割したブラックウォールナット原木



製材方法を打ち合わせしています



製材直後のブラックウォールナット材の色の確認



小生が社員様をマンツマンで説明しています

この企画『若い社員教育の為の原木の製材』を考えて頂いた社長様に感謝を述べたいと思います。

現在の理想的な木造建築物



私が日頃お世話になっている椎原毅建築士が設計された物件です。右の写真の説明『左が理事長さんです。右が椎原毅様です。』です。



←左の写真は高羽六甲アイランド小学校の体育館です。一部鉄骨で支えられていますがほぼ 90%以上木造です。木造と言っても集成材ではございません。全て無垢材です。

兵庫県産のヒノキ材で組み上がっています。いわば現在の無垢のヒノキ材の使い方を記したバイブルみたいな建物です。小生はこの現場に何ら関係はしていません。しかし日頃椎原先生に公私共にお世話になってましてこの竣工に呼んで頂きました。



難しい話『建築の確認申請等』はさておき、こう言う形のヒノキ・スギを大量に使った建築物を是非日本全国に広げて欲しいと思い服部新聞で取り上げました。小生は何としても有り余っている国内産針葉樹を使いこなす『集成材ではなく無垢で』事以外に今の国民の暮らしと安全を守る手段は無いと思います。

東日本大震災の被災地にこのような日本の国産材の無垢材を使った建物が出る様に望みます。

株式会社C・E・M椎原総合設計

大阪市北区西天満 6-3-11 梅田ベイスワン 209

TEL : 06-6311-0361 FAX : 06-6311-5056

FAX 072-422-8577

アンケート

1、現在の日本国内の街作り・住い作りには、法律はまだまだ整備されていない。

はい

いいえ

2、法律以外にも問題点は多くある。具体的に書いて下さい。

3、得意先だけの勉強会に興味がある

はい

いいえ

4、自分の会社も独自の勉強会を服部さん所でしてみたい。

はい

いいえ

会社名	
担当者名	

(株)服部商店
〒596-0011
岸和田市木材町 16-1
TEL 072-438-0173